

松染清史秋毛草

13  
3245  
3

9 10 1 2 3 JAPAN 3 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30 1 2 3



門へ 13  
 3245  
 3

正館末

青月

銘酒家



昭和十年九月九日 購求

松澤情天秋七草卷之三

東都

曲亭馬琴編次

第五

葛は名つる

やうれ草

秋はまはる花むらさきの松や外にけしき露さみよとにけれも其の  
 尾花が袖ふ吉野の葛やうら枯る衣年寒き神月も名のも  
 り秋野姫と乳母豊浦は技藝は六田の旅宿を出しよりあは  
 りめは隠さる涙の雨に降る胸の志づきさうてゆく道へ  
 るけきおひ入る山迹路を彼此と野をる死里を予群群法隆  
 寺は遠くぬ西安の里よりたどりるあふふはたのね旅の  
 一くやうもろれ哀傷の牙えらる終も疲勞の歩の運びも定  
 るる豊浦はさやぐは勲に進ませ戎を激し戎を慰めし

本兼











秋野姫を救出し進みたるは二人の悪棍の右より左より。その顔  
をうら観る。太郎犬かい人なり。二郎ハ何とも人なり。下めより  
その女ふり。平人なり。と太さへ措き。れど。日を暮る馬  
ふ。その女を賁する。り。を放す。宝の山は入る。手  
手を空しくする。の。計の奴原より。正  
さ。あ。と。い。二。郎。犬。笑。う。ち。息。次。れ。由。さ。そ。を  
あ。冬。枯。ま。ち。由。様。ハ。様。る。吉。野。の。内。裡。を。迷。ひ。出。て。い。い  
か。夜。を。呻。吟。と。も。長。閑。と。春。は。あ。り。由。る。乳。母。の。懷。あ。二。色  
牧。三。色。の。堰。堤。の。山。吹。さ。持。り。と。お。ぼ。し。の。金。は。さ。ら。し。ま。う。バ。眼  
閉。く。ん。ど。も。脱。さ。あ。さ。う。出。て。い。う。め。く。黒。ず。る。手。首。と。豊。浦  
か。懷。は。挾。ん。と。さ。知。と。さ。も。附。む。丁。と。突。退。る。奇。怪。る。女。主

従と。あ。悔。ア。う。う。る。る。を。い。ひ。う。る。そ。も。汝。木。を。賊。る。よ。南  
朝。の。零。落。人。さ。う。誰。は。さ。う。か。い。ひ。従。者。も。野。あ。れ。ど。老。い  
の。先。へ。走。く。脅。力。人。は。勝。ま。る。若。黨。ハ。笑。目。の。御。ま。で。取  
る。か。今。ハ。追。ひ。著。べ。い。さ。も。命。は。缺。代。や。あ。る。二。ッ。の。首。を  
失。ん。と。う。嗚。呼。る。自。校。さ。う。と。猛。く。ハ。罵。れ。ど。翼。る。化  
枯。野。の。姫。小。松。引。く。も。ろ。く。心。を。難。く。風。情。さ。う。悪。棍。ホ  
ハ。笑。あ。い。ど。何。と。と。合。笑。ひ。健。気。あ。い。ど。目。盲。法。師。よ。い  
拈。う。て。も。南。朝。の。零。落。人。と。い。ふ。人。を。従。者。野。あ。り。と。い  
と。童。も。い。づ。実。り。と。い。ふ。さ。う。い。う。ん。と。詮。る。は。所。行。る。果  
打。什。と。聞。さ。う。息。杖。を。う。ち。振。う。左。手。右。手。う。競。ひ。蒐。る。夜  
豊。浦。と。い。う。と。い。う。足。を。さ。う。太。市。犬。ハ。筋。斗。と。い。て。撲。地





法隆寺の  
門前  
丹五兵衛  
秋野姫  
主従  
故入

木下村



と投。続々萬る二郎犬が。膳を丁と樹く。女の拳由卻舎と打と  
て。叫苦と一声仰。まよ。倭僮卧て起ぬる。誘ふ。隙や。豊  
浦。まよ。うひく。秋野姫の手を被く。橋を向ひ。渡り去。後由  
あ。と。せ。ど。悪棍木へ。忙。身と起。薑直は追。萬る。櫓の手より。ち  
覆。油。又。足。を。と。と。是。彼。尻。尾。は。輾。轉。起。ん。て。又。と。  
繚。尾。を。曳。濡。氣。或。ハ。亦。瘦。犬。の。轍。又。引。ま。と。盡。く。ど。罵。り。あ。入  
の。と。ん。ま。と。る。直。と。果。ま。と。眼。を。睜。り。死。や。と。を。怪。ま。と。う。お  
あ。も。あ。れ。向。ひ。の。岸。又。立。在。る。賣。油。郎。丹。五。兵。衛。と。る。分。野。と。信。と  
え。と。の。と。と。初。を。と。提。と。走。り。か。り。て。打。回。ふ。太。郎。犬。も。二。郎。犬。も。  
肩。を。折。り。背。を。腫。ら。し。も。と。と。と。高。吠。と。を。逃。去。り。け。れ。  
後。は。是。等。傳。へ。せ。ん。世。の。総。角。が。小。唄。も。油。屋。の。損。が。水。の。損。と。  
油。一。斗。覆。し。つ。その。油。の。ふ。せ。太。郎。の。犬。と。二。郎。の。犬。と。み。か。塗。と

と。ん。ぬ。と。今。の。世。や。と。も。唄。め。り。丹。五。兵。衛。と。悪。棍。木。を。追。ひ  
捨。て。舊。の。処。へ。立。上。り。秋。野。姫。の。立。在。り。樹。の。下。は。浮。屠。と。い。ひ。出  
る。も。と。涙。を。潜。移。と。落。と。あ。ど。姫。君。を。い。と。訝。し。げ。と。渠。へ。誰。と  
同。く。ハ。豊。浦。ハ。月。光。と。ま。ん。と。う。ん。と。と。く。と。彼。ハ。乳。母。が。夫  
る。雞。居。兵。衛。と。い。う。と。回。答。す。う。せ。ば。秋。野。姫。ハ。黄。泉。あ。と。い  
ふ。達。と。ら。し。と。飲。び。め。り。大。と。う。と。と。原。本。兵。衛。と。う。と。飲  
げ。と。い。う。と。と。對。面。せ。り。憑。ひ。蔭。る。身。も。かく。捐。る。神。あ。ま。は  
又。祐。る。神。う。月。と。い。か。り。母。え。ど。そ。も。汝。と。い。う。の。頃。と。う。け。と。う。と  
隠。ま。住。し。る。縁。故。を。あ。と。と。と。い。と。叮。嚀。と。同。く。ハ。又。豊。浦。ハ  
目。を。押。拭。ひ。つ。夫。と。對。ひ。あ。ん。身。が。龍。泉。寺。の。城。を。脱。と。ま。り。あ。ひ























一足腰鼓振鼓銅鼓子。編本。殖女。養女木の教種あり。る様樂乃  
一変くるかのことぞ。ゆきぶその起る如きとぞ。むく郁芳門院  
院の皇女あり。聖子の齋院より坐す。皇太后もねと院と稱へる。それゆゑに。殊よその能藝を好ませむいふ。姑射仙  
宮の内より召催さん。田樂に覽のり。あはれくる。其の後五  
十五代の帝。後醍醐院の元弘年中。洛中。堪佐の者。多く  
来り聚ひし。後金の高時入道。本座新座の田樂を唱ひ下し。  
日夜よられを舞踏し。もくもく戯をりて。遂にその座を去り。天  
下南北朝とつれ。北朝の九十七代。光明院のおん時。貞和五年の事。  
元弘十八年。田樂より盛は洛中へ行。將軍より氏を好む。抑  
田樂より田家の樂より来り。その舞曲は。殖女娘女といふ名月  
あり。殖女といふ田を殖む女のみ多し。養女といふ。蚕娘より女のみや。

田と殖。蚕を娘へ。る田家常の業あり。る。る。打扮は舞多し。ハ  
田といふ名けり。る。る。の。亦一説は。今の世は豆  
腐を短冊形に切。木の串に貫き。新味増を塗。焼を田樂と  
稱ふ。彼が舞踏。これ。長に竿は携。形容を思ひ。る。る。名を  
負。る。愚按。る。放下刀玉。田樂の所作。田樂廢れて  
放下僧といふ。の。その。放下僧も。又廢。今ハ上竿伎  
の。あり。刀玉。今。品玉。法苑珠林。西域の女戲。五入  
三刀を傳弄。加。十。これ刀玉。と。駒谷山人。り。  
匡房卿の洛陽田樂記と按。高足一足腰鼓。振鼓。編本。殖  
女。娘女。る。の。曲目あり。その打扮。或。九尺の高扇を持。  
或ハ草蓆笠を戴。或ハ蒿の尻切を穿。或ハ裸形。腰。







後新座の樂屋より。猿楽をゆく。その猿いと微妙舞踏なり。  
 忽ちよりあつて。不慮に命を損ずる。數百人は暨べり。此座も  
 跟不吉なり。前車の覆きなり。後車の戒とあるなり。此座も  
 災害あり。量ぐ。努力ひきまう。とあるなり。稗史なり。其  
 満中より冷笑ひ。汝達も只その一とあるなり。二とあるなり。貞和  
 の昔。是利の武威。いまだ全く振る。夜又天狗など。動も  
 されば。その隙を窺て。る綱を起す。今又満中。時よ至り。南帝  
 を入洛す。進んで東西の強敵を討成す。四海もめて異はぬ。  
 萬民今より天日を見る。独樂を樂む。衆とあはれ。孰も樂  
 事。衆とあはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。  
 棟梁の武臣より。これより對して。やまを。女より。女より。女より。

汗を流して退出し。さういふ。件。の老臣より。聚ひて。高  
 議。貞和五年の田樂あり。天狗山伏の爲。夥の人を殺され。と  
 世あり。いふ。これ。此度の田樂。終驗の山伏を禁。棧敷の中へ  
 入る。且非常の衛護肝要なり。供奉の近臣より。その  
 ころ。番卒あり。その角を下。時。又。明德四年三月  
 廿五日。田樂興行の奉日と定。將軍。満公。千の比。及  
 室町。花の。所。を。出。して。斯。波。葉。竹。山。の。兩。管。領。四。職。頭。人。配  
 近の武士。殿上人。上達部。など。夥。なり。河原の棧敷。入り。り。  
 洛中の貴賤。も。多。し。と。入。り。て。二百八十九間の棧敷。は。凡。を  
 立。づ。り。去。程。は。楠。内。二。郎。正。元。と。去。年。の。冬。六



田の旅宿より。妻を喪ひ嫁は別れ。却て洛へ帰る。洛へ上りて。居るの  
 仇人將軍美満と相争ふ。答は森戦を枕し。竊は便宜を  
 うぐぐぐ。是利の武威烈しく。夏の日異なり。草木も森  
 隙をさる。いづるは年暮春。春も三月よりふれど。さう見  
 ても。ちを慰むるより。かみど。霞のうねど。ほろりと。標丸の。秋  
 野姫の往方。いづるはあまんと。あひかれ。越路へ帰る。天津雁。前  
 脱より。恙あり。世より。水莖より。同より。あまし。山昼も  
 馬の奥に隠れ。さう。洛中を徘徊し。あま。時々。部野の  
 乞見。打扮。さ。或。終験の山伏。打扮。室町の。所を。寛  
 窺。入。三月。五日。お軍。美満。四條。河原。田。樂。を  
 商。さ。う。豫。て。風。吉。あり。し。時。至。り。ぬ。と。深く。飲。び。本。日。ハ。早。旦。し。う。

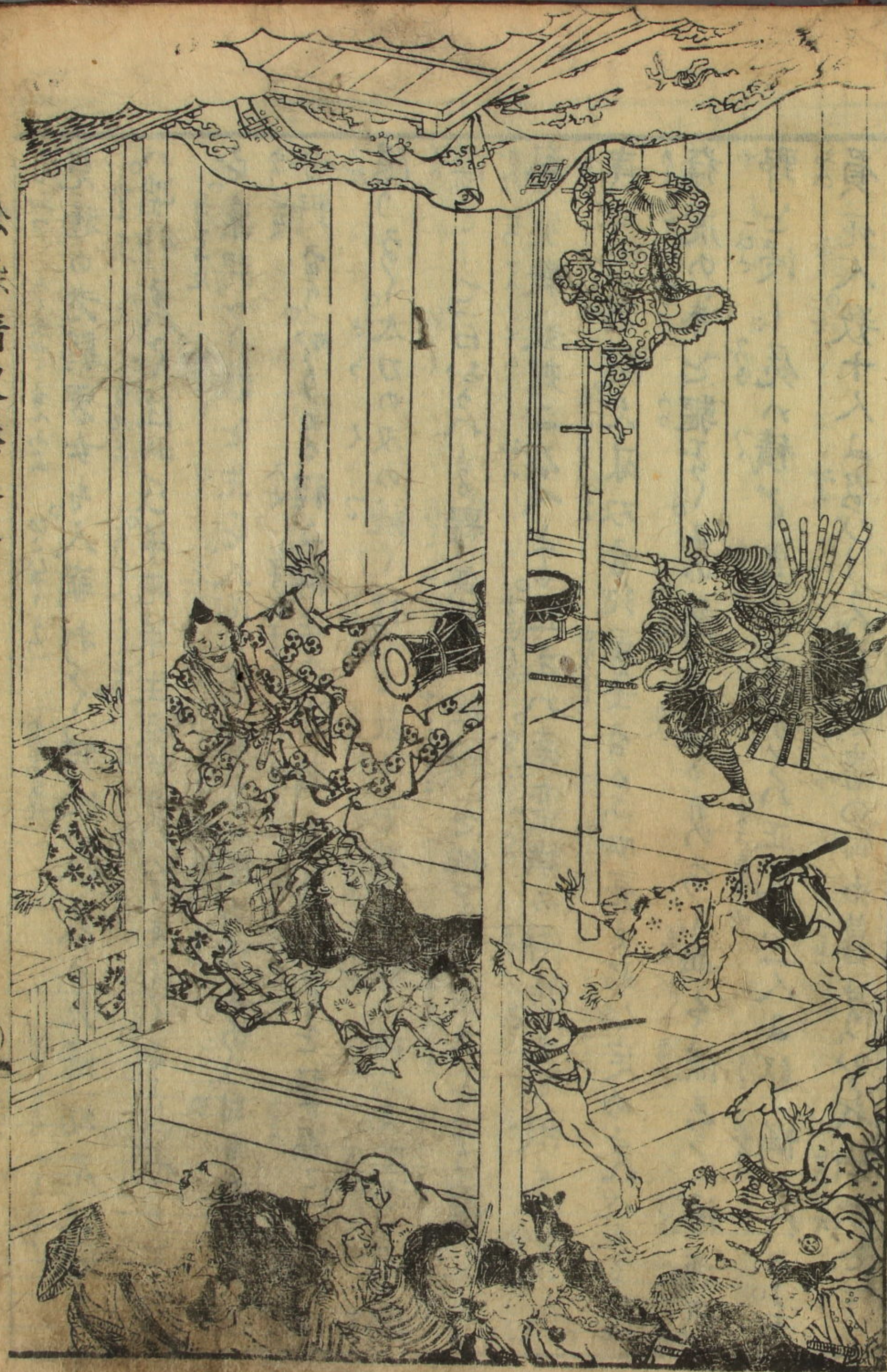
符。祇。口。兜。巾。し。長。ず。る。太。刀。を。佩。細。代。の。笈。と。背。負。つ。金。剛。杖  
 を。御。鳴。け。假。山。伏。と。さ。う。て。河。原。は。赴。き。群。集。の。老。弱。より。難。を。
 時。刻。を。う。り。後。亭。午。の。比。大。樹。枝。敷。入。り。あ。ひ。ぬ。と。響。動。さ。う。
 衆。皆。走。り。騒。ぐ。後。方。は。跟。ぎ。正。元。も。東。の。本。門。より。入。り。と。さ。う。番  
 卒。お。捍。棒。を。左。右。より。扱。け。て。遮。面。は。さ。う。や。あ。の。田。樂。の。山。伏。を  
 禁。制。さ。う。さ。う。退。れ。し。と。い。つ。め。制。し。う。正。元。を。れ。を。さ。う。
 打。扮。り。と。あ。ひ。さ。う。騒。ぐ。氣。さ。う。さ。う。れ。越。路。へ。順。の。峯。入。り。す。
 修。驗。者。さ。う。道。の。次。は。洛。中。洛。外。の。神。社。仏。閣。冥。宝。冥。跡。を。か。き。と。さ。う。
 杖。を。洛。へ。曳。お。う。あ。の。社。親。は。さ。う。あ。し。と。生。涯。の。幸。あ。れ。と。飲。び  
 ぬ。い。つ。ふ。の。を。入。し。め。さ。う。ハ。幸。意。さ。う。さ。う。一。曲。を。ん。せ。め。と。い。ひ  
 由。果。じ。う。ち。合。し。る。棒。の。上。を。碎。ぎ。踏。ん。と。さ。う。さ。う。番。卒。お。大。に。



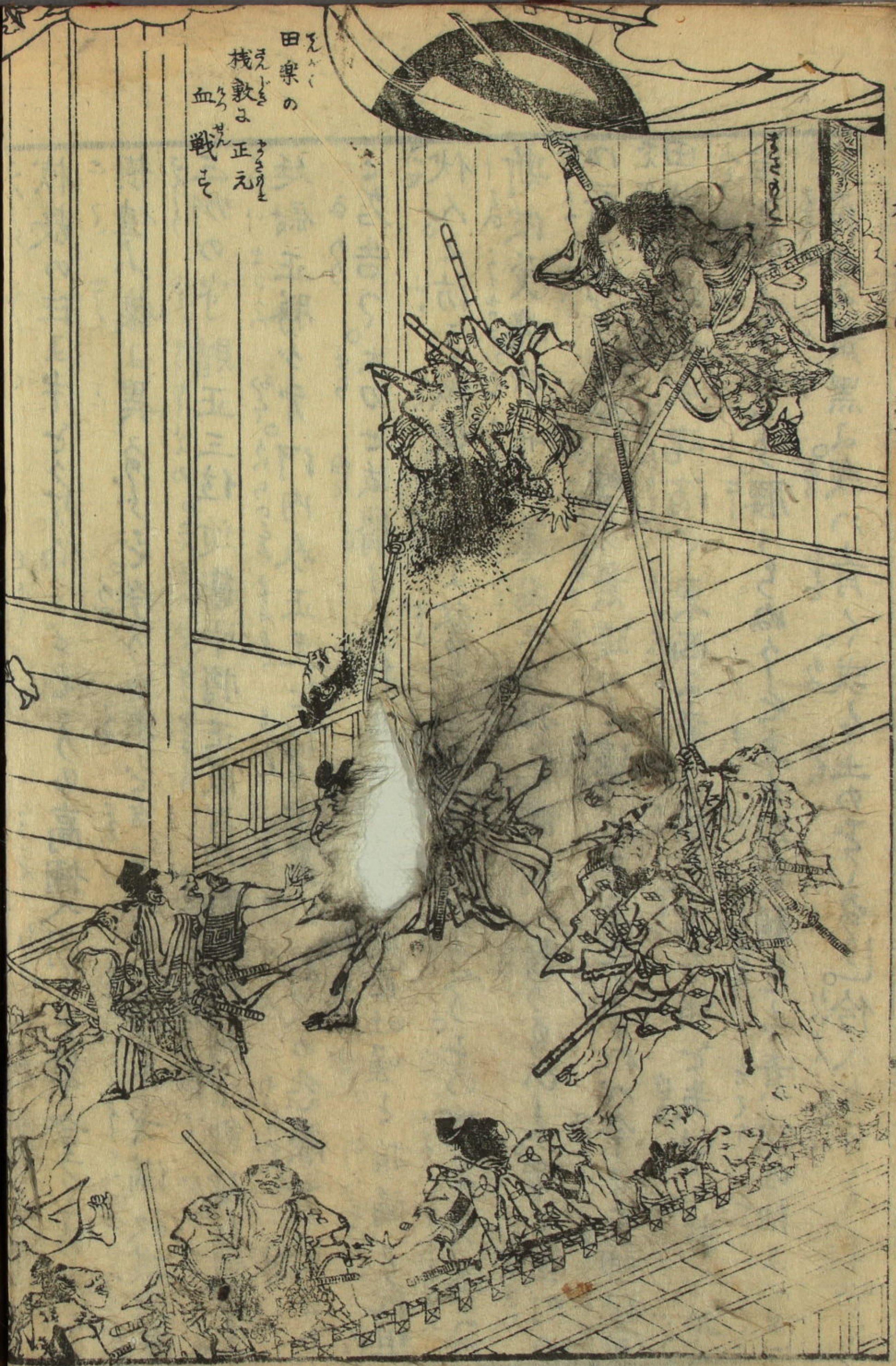
怒り。らる。狼藉あり。傳々どや貞和のひび。お軍する氏公。み河原まで。  
田樂を楽せし。天杓山伏の怪異ありて。殿の人を殺し。その故ふ。官  
領家の下知より。ふも山伏を禁制と。汝いふに。むと。許さ  
内へ。入る。ざる。蓋の屑を動し。縛る。まゐ。と。罵りて。正元を。せむ  
か。し。持棒を。拂ひ。退。ホカ。内へ。衝。と。入。ま。痺。者。ぞ。と。踏。だ。立  
る。背。より。面。より。組。苗。んと。く。闔。く。と。物。とも。せむ。金剛杖。を。さ。る。る。海。て。  
當。る。隨。ふ。打。倒。し。棧。敷。を。信。と。え。ま。西。面。は。高。棚。と。紫。の。幔。幕  
より。兩。の。紋。著。る。を。引。き。お。軍。兵。満。上。坐。は。光。御。あり。公。卿。武  
士。等。それ。を。囲。繞。し。その。為。倅。風。流。の。綺。羅。を。そ。さ。む。と。い。ふ。る。り。  
正元。それ。を。ん。く。盲。龜。の。浮。木。優。曇。華。の。春。より。み。お。持。て。些。由。  
擬。淺。む。び。笑。搖。捨。箒。万。人。り。群。集。す。頭。の。上。を。飛。越。く。下。る。れ

棧敷の柱は手とりけ。仰するむろの高欄へ閃々と攀登する。その疾こと。  
 樹傳ふ猿は異なりど。登るも果て声とありま。つゝ不義満故摂河泉  
 三州の守。贈正三位近衛中将正成あり孫に内國千劍破の城主。  
 廷尉正勝が弟。河内女正元と嫁りや。累代君父の怨歎を承るに。  
 と名告つ。太刀と抜翳しと打。  
 伏人と防ぎ弑ひ。矢疾に怒りり。の八九人は及べり。その隙に義満は。  
 斯波義將紫牛山基國ホとむ。隣棚へ移りもひが。あて室町の  
 此所へ歸りもひつ。緯の景迹つと遠くぞ見え。されば今更に誦ねる  
 田樂法師ホ。魂清く東西はまき。深き。或は堵と失ひと鼓と花  
 笛と握りちるる。腰うちぬくもまゆむ。顔色も素袍の袖は。  
 く。花田は黄黒は。或は青く。或は土のどるあり。伶人も号する。





田樂の  
えいど  
機敷は  
血多せん  
戦こそ  
正元





見物の老弱男女々々人崩打々慌忙。ひびひるた婦幼。尼法師も  
へ。滑仆え。泣叫び。羊死羊生るもの。いそぐそとひるる。とら  
ど。樂場。悲を生む。人間の苦樂。只一瞬の中。あり。目もあてられぬ  
分野。りり。経。楠正元。將軍。義満。云々。を。督。漏。り。て。迷。恨  
限。る。太刀の刃の。続く。経。と。敵。手。を。擇。む。挑。む。戦。う。非。常。乃。衛  
護。と。して。召。か。れ。る。野。兵。百。人。陰。禰。を。仇。と。す。正。元。を。う。圍。む。奮  
突。戦。敵。刺。さ。る。ぐ。も。正。元。ハ。南。蛮。鐵。の。隙。帷。子。を。被。り。し。る。浅  
疾。ぐ。も。負。む。え。み。双。る。死。勇。士。る。ふ。必。死。と。い。ひ。定。め。さ。れ。ば。さ。れ  
猛。虎。の。羊。と。驅。む。その。降。は。當。る。もの。あり。血。々。流。ま。る。豚。鹿。乃  
野。と。浸。し。屍。ハ。積。ぐ。思。ふ。さ。か。く。正。元。只。一。人。ハ。督。悩。さ。れ。る。手  
負。死。人。数。十。人。ハ。な。る。び。く。長。き。春。の。日。も。暮。る。が。れ。強。敵。を。う

逃。さ。る。忌。め。る。い。ん。大。事。う。る。ぐ。と。紫。竹。山。基。國。討。手。の。大。將。を  
う。け。ぬ。り。う。ね。く。兵。士。と。倍。加。ら。る。稻。麻。竹。葦。ふ。さ。る。巻。る。蓑  
火。挑。灯。と。見。星。ハ。吳。る。と。ど。と。正。元。と。る。一。足。も。退。く。と。ろ  
む。り。ハ。猛。し。く。と。ど。も。の。身。鉄。石。ハ。あ。る。が。れ。今。い。う。と。い。ひ。絶。屋  
の。據。を。突。破。り。て。櫓。の。上。より。登。り。つ。天。を。仰。ぐ。長。嘆。し。後。主。降。る。  
姜。維。ハ。謀。成。ら。ぬ。嗚。呼。天。を。れ。と。喪。せ。り。天。を。見。て。を。喪。せ。り。夫。善。惡  
正。邪。因。果。應。報。の。係。り。一。旦。の。利。運。は。う。つ。く。追。速。の。り。久。く。曲  
ま。る。足。利。ハ。武。威。ハ。誇。る。も。衰。へ。時。を。う。る。ん。や。さ。る。寄。る。討。手。の  
大。將。を。紫。竹。山。と。る。り。解。目。欽。正。元。ハ。死。首。取。る。功。名。話。説。き。と  
う。り。ハ。腹。さ。る。や。う。さ。も。う。く。ん。お。れ。と。後。す。で。も。諸。り。続。ぎ。油。木。ハ。運。竭  
る。ん。と。れ。の。手。奉。ま。せ。よ。と。叫。び。く。り。肚。甲。の。上。帶。切。り。捨。血。刀。を















正元の  
首級と  
奪んて  
丹五共  
隻袖と  
失ふ





勇を奮ひて。一方を破つた。鳥夜は紛れど、いつともなく。往方も  
 多し。どろろりふり。かゝく。丹五兵衛と。半どく。日岡の危難  
 破脱。通霄走りつ。次の日浪花へ立寄る。ふり。既に勞らく。功  
 あり。正えの首級へ。付り。のともあふ。僅に奪ひ出つ。しが隻袖を取  
 り。散り。身方う。と。そまう。うさぬ。思ふ。ふ。はやく。さひ。合はる  
 う。もろ。い。い。ち。ち。く。安う。な。ば。途み。く。日と暮。し。尾。櫓。の。正  
 が。肆。は。ぬ。う。え。ふ。れ。ば。阿。也。女。が。傑。の。待。と。び。く。忙。く。出。送。長。途  
 の。疲。勞。を。同。慰。め。る。ど。なる。ふ。主。管。を。非。ハ。も。小。斯。木。の。い。活。業。の  
 り。の。あ。う。て。堪。う。と。く。行。う。る。と。ん。と。あ。い。え。る。れ。ば。丹。五。兵。衛  
 ハ。此。二。ち。あ。わ。く。と。そ。夕。餐。と。う。べ。く。その。間。は。阿。也。女。が。夫。が。脱。捨  
 する。衣。を。奪。む。と。その。上。は。被。う。し。を。下。は。龍。衣。の。め。り。が。ず。く。引。き

放つゝるふ。左の袖へ断離くる。そ不審と云ふ。その夜是非八  
 と小断ホを臥し後。親子三人蒸襦とて籠る。浴のやうを  
 問ふ。丹五兵衛は仔細る物うをせど。以守る人のいとまうと。  
 卒をゆる遂とてふ。阿也女再と。宣へと。そうぬがう左の  
 袖より。そつふーひと。と問。丹五兵衛答く。彼隻袖へ今朝  
 一由定の河船は乗りと帰る。岸の茨ふ引るふと。断離  
 すると。ゆると。と欺く。阿也女とる母とるりし  
 けし。今宵夫がいづと。帰るよ。早と失ひと。うひと。  
 おるれ。うと。うと。いひ。由と。次の日。囉齋は物として。  
 昼。家廟は御燈を進と。香り。そえと。お深り。と。  
 密。正えの菩提を吊ひぬ。かくて三月。四月。五月。二日







陰ま在。且竊窺。且竊聞。丹五兵衛ハ騷ぎたる気色も有。税平ハ對ひ某ん身ハ女児を妻せん。假ふハ約結せしめハあつた。何人ハ媒妁セ。まづそのめのうろ名告あつて。いふ。税平ハ。さこそと冷笑ひ。いふ。媒妁をさすべし。それいふと。意ハ懷中。丹五兵衛ハ隻袖をとり出し。左手ハ高くは翳し。泰山ハ。それを怒まう。中。問ハ。丹五兵衛ハ大に驚れ。膝。そんと。手首丁と拂ひ退いぬ。三月十六日。大津。あつた。丑三。路。と。岡。日岡の山蔭ハ。桑。ま。楠正元ハ首級を盗ま。そんと。濡び。癖者あり。それを脱。さ。番卒。か。打。刺。叔。桂の袖をうけ。必死と。残。お。あ。行。さ。忍び。復。隻袖の色。田。深。媒。妁。く。も。同。辞。や。変。改。否。と。ハ。袖。を。め。紫。山。宿。所。赴。審。新。元。正。元。首。級。を。め。油。の。丹。五。兵。衛。の。同。じ。も。楠。残。黨。り。い。縁。と。締。べ。の。袖。の。片。腕。と。も。憑。腎。翁。ハ。親。子。ハ。等。推。辞。と。ハ。の。袖。の。片。腕。失。妻。子。ハ。同。罪。さ。う。然。定。め。回。答。さ。う。と。も。跟。入。る。備。若。人。も。時。さ。う。ハ。理。の。當。然。それ。胸。ハ。隻。袖。も。と。も。つ。麻。糸。の。有。の。二。つ。丹。五。兵。衛。ハ。苦。し。隨。ハ。あ。世。を。濡。び。物。伴。る。女。児。と。主。君。の。息。女。と。素。姓。も。ぬ。瘦。浪。人。の。妻。ふ。せん。それ。の。と。う。い。姫。君。ハ。操。丸。と。う。と。夫。あ。つ。と。持。ハ。敬。る。など。楠。氏。乃。類。と。さ。い。姫。君。の。人。ハ。危。し。と。ん。と。ん。今。も。腹。れ。



袖のうらそをひるり。ふ深はくは堪へぬ。まゝ出  
つ紙剪の小刀をふり。呪へ突立んと志す。阿也女ハ  
吐嗟とまゝ出。丹五兵衛り。ゆとゆ。右より左より抱え留る  
物を抱ふらん。自又見え。何れぞと禁顔より。観る。決ハ袖  
ふり。親の難儀ゆ。初めて別れても。結髪の際在  
小標を破り。糸を汚し。他一失。小伴。百年千年存命とゆ。  
世のあひの侍。人ヤ。今面ある墓。あゝ。要らんと人。  
早も。袖をく。是彼。是。結。柳の糸を墳標。常の  
風ハ。ぬ。女子の標を。口説。  
うと注理。丹五兵衛。阿也女。共。涙を拭。袖ハ仇物。俵  
とゆ。練め。や。又。深ハ。注

沈。放。殺。多。ひ。ね。と。又。母。母。と。ち。あ。ひ。さ。る。え。さ。る。  
當下。主。官。是。非。ハ。油。桶。の。洞。具。ふ。夢。れ。居。る。店。の。櫃  
臺。を。十。の。指。を。く。引。も。抜。む。小。拭。ひ。店。の。櫃  
ふ。這。ひ。登。り。ち。が。税。卒。又。對。ひ。く。改。で。低。僕。丹。五。兵。衛。が。主  
官。是。非。ハ。と。目。今。今。さ。く。め。る。縁。由。ハ。ゆ  
ち。ね。ど。結。る。主。の。難。儀。ハ。その。蔭。より。小。所。お。や。が。難。儀  
も。も。か。く。ゆ。か。條。と。説。諭。の。婚。姻。を。整。と。進。む。  
三。五。の。生。ぐ。れ。が。それ。と。主。果。も。あ。ト。今。且。く。待。つ。  
威。勢。り。と。逼。る。べ。釋。如。小。鮮。鮑。も。食。と。と。れ。と。彼。と。と。と。  
従。ハ。ば。趣。る。か。む。の。の。さ。う。さ。と。も。精。の。の。あ。や。ん



















